



## 2022年6月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

2022年5月10日

上場会社名 株式会社エーワン精密 上場取引所 東  
 コード番号 6156 URL <http://www.a-one-seimitsu.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 林 哲也  
 問合せ先責任者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 林 哲也 (TEL) 042-363-1039  
 四半期報告書提出予定日 2022年5月13日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 2022年6月期第3四半期の業績 (2021年7月1日~2022年3月31日)

## (1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年6月期第3四半期	1,416	18.2	350	36.2	357	35.2	246	35.2
2021年6月期第3四半期	1,197	△12.4	256	△31.4	263	△30.6	182	△30.8
	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益					
	円 銭		円 銭					
2022年6月期第3四半期	50.50		—					
2021年6月期第3四半期	37.95		—					

## (2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年6月期第3四半期	9,390	8,624	91.8
2021年6月期	9,096	8,412	92.5

(参考) 自己資本 2022年6月期第3四半期 8,624百万円 2021年6月期 8,412百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年6月期	—	0.00	—	70.00	70.00
2022年6月期	—	0.00	—	—	—
2022年6月期(予想)	—	—	—	100.00	100.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

配当予想の修正の内容は、2022年5月10日発表の「2022年6月期(第32期)配当予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

## 3. 2022年6月期の業績予想 (2021年7月1日~2022年6月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,850	10.8	497	31.3	506	30.0	340	26.6	70.88

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

2022年6月期3Q	6,000,000株	2021年6月期	6,000,000株
------------	------------	----------	------------

② 期末自己株式数

2022年6月期3Q	988,390株	2021年6月期	1,201,549株
------------	----------	----------	------------

③ 期中平均株式数（四半期累計）

2022年6月期3Q	4,874,687株	2021年6月期3Q	4,798,486株
------------	------------	------------	------------

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(会計方針の変更)	7
(セグメント情報等)	8
(収益認識関係)	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルスのワクチン接種が進み、経済消費活動に落ち着きが戻ってきたことを受けて、堅調に推移しました。

世界的に見ると、新型コロナウイルスに対してワクチン接種が進んだ地域を中心に急速に経済活動が回復して、米中を中心に世界経済を牽引してきました。耐久消費財、工作機械、生産設備、輸送用機器などあらゆるものが情報処理に関係して、半導体を必要とするようになり、半導体製造装置需要が増大し関連する産業は大きく動いています。一方で経済回復に伴い物価上昇傾向が出てきたなかで、ロシアのウクライナ侵攻など地政学的リスクにより、原油・ガス、穀物商品価格上昇が顕著になり、インフレ抑制のため世界的に金利が上昇する状態となってきました。現状は、コロナ低迷からの経済回復の側面が継続して、堅調を維持してきました。

国内製造業においては、経済活動回復に伴う生産活動活発化で工作機械、設備など生産財は受注増加して、半導体製造装置も世界的な半導体不足を反映して年内は過去最高水準の受注を維持しています。設備、産業用ロボットなど増産でコア部品となる減速機、海外向けが好調な建設機械、建機向け油圧ユニットなども受注が増加しました。

自動車業界では世界分散した工場での操業休止による部品欠品、半導体不足などにより完成車組み立てができずに、減産するケースが増えました。部品メーカーは操業度が低下して、受注減少の影響を受けました。逆に電動化に向けた部品生産や開発は旺盛であり、EV電池なども増加傾向となりました。

このような状況のなかコレットチャック部門では、自動車の一時減産を受け部品によっては減少しましたが、半導体、電子部品、精密機器、医療部品などの量産部品加工が堅調であり、当社の受注も堅調に推移しました。今年の1月から2月までは高水準の受注で、3月は少し落ち着きましたが総じて順調な受注となりました。

この結果、当セグメントの第3四半期累計期間の売上高は992,272千円（前年同期比19.0%増）、セグメント利益は475,141千円（前年同期比24.3%増）となりました。

切削工具部門では、量産部品加工と設備治工具・金型などの単品加工ともに受注は堅調で今年の1月の初めはスロースタートでしたが、その後は3月まで緩やかながら増加しました。

このような状態のなか、別注切削工具の製作・再研磨は、複雑形状の加工や加工工程・時間短縮のため需要は根強く受注は堅調に推移し、売上高は108,489千円（前年同期比26.1%増）となりました。

市販切削工具の再研磨は、総じて顧客企業の機械稼働率が上昇したのに連動して、当社の受注も戻しました。売上高は299,453千円（前年同期比13.9%増）となりました。

この結果、当セグメントの第3四半期累計期間の売上高は407,942千円（前年同期比16.9%増）、セグメント利益は91,491千円（前年同期比42.7%増）となりました。

自動旋盤用カム部門では、カム式自動旋盤で加工する量産部品も堅調に推移したことで、受注も増加しましたが、人員の移動がありコスト増となり、減益となりました。

この結果、当セグメントの第3四半期累計期間の売上高は15,834千円（前年同期比4.8%増）、セグメント利益は5,764千円（前年同期比37.0%減）となりました。

これらの結果、当第3四半期累計期間の売上高は1,416,049千円（前年同期比18.2%増）、営業利益は350,011千円（前年同期比36.2%増）、経常利益は357,019千円（前年同期比35.2%増）、四半期純利益は246,156千円（前年同期比35.2%増）となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

### (資産)

当第3四半期会計期間末における流動資産の残高は、7,585,016千円(前事業年度末は7,546,445千円)となり38,571千円の増加となりました。これは、現金及び預金が72,942千円、仕掛品が4,373千円減少しましたが、前払費用が97,716千円、受取手形及び売掛金が17,665千円増加したこと等によるものであります。

また当第3四半期会計期間末における固定資産の残高は、1,805,112千円(前事業年度末は1,550,032千円)となり255,080千円の増加となりました。これは、機械装置及び運搬具が15,230千円減少しましたが、長期前払費用が162,802千円、有形固定資産のその他が78,355千円、繰延税金資産が16,843千円増加したこと等によるものであります。

この結果、当第3四半期会計期間末における総資産は、9,390,128千円(前事業年度末は9,096,477千円)となりました。

### (負債)

当第3四半期会計期間末における流動負債の残高は、250,982千円(前事業年度末は198,762千円)となり52,220千円の増加となりました。これは、役員賞与引当金が820千円減少しましたが、未払金が28,912千円、未払法人税等が18,497千円、その他が3,369千円増加したこと等によるものであります。

また、当第3四半期会計期間末における固定負債の残高は、515,071千円(前事業年度末は485,583千円)となり29,487千円の増加となりました。これは、その他が678千円減少しましたが、退職給付引当金が21,915千円、役員退職慰労引当金が8,250千円増加したことによるものであります。

この結果、当第3四半期会計期間末における負債合計は、766,053千円(前事業年度末は684,345千円)となりました。

### (純資産)

当第3四半期会計期間末における純資産の残高は、8,624,075千円(前事業年度末は8,412,131千円)となり211,943千円の増加となりました。これは、利益剰余金が89,735千円減少しましたが、自己株式の減少が149,241千円、資本剰余金が143,850千円、その他有価証券評価差額金が8,586千円増加したことによるものであります。

## (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の見通しにつきましては、2021年8月10日発表の業績予想どおりとなる見込みであります。

## 2. 四半期財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2021年6月30日)	当第3四半期会計期間 (2022年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	6,881,276	6,808,334
受取手形及び売掛金	406,642	424,307
製品	3,608	3,585
原材料	30,912	31,376
仕掛品	223,135	218,761
前払費用	—	97,716
その他	1,119	1,375
貸倒引当金	△250	△442
流動資産合計	7,546,445	7,585,016
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	450,646	451,555
機械装置及び運搬具(純額)	456,254	441,024
土地	333,534	333,534
その他(純額)	13,297	91,653
有形固定資産合計	1,253,733	1,317,767
無形固定資産	3,710	2,989
投資その他の資産		
投資有価証券	132,075	144,359
長期前払費用	393	163,195
繰延税金資産	159,564	176,407
その他	1,279	933
貸倒引当金	△724	△540
投資その他の資産合計	292,587	484,355
固定資産合計	1,550,032	1,805,112
資産合計	9,096,477	9,390,128
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	16,112	18,372
未払金	85,080	113,993
未払法人税等	58,660	77,157
役員賞与引当金	9,300	8,480
その他	29,608	32,978
流動負債合計	198,762	250,982
固定負債		
退職給付引当金	351,961	373,877
役員退職慰労引当金	128,910	137,160
その他	4,711	4,033
固定負債合計	485,583	515,071
負債合計	684,345	766,053

(単位：千円)

	前事業年度 (2021年6月30日)	当第3四半期会計期間 (2022年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	292,500	292,500
資本剰余金	337,400	481,250
利益剰余金	8,593,408	8,503,672
自己株式	△841,395	△692,153
株主資本合計	8,381,912	8,585,269
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	30,219	38,805
評価・換算差額等合計	30,219	38,805
純資産合計	8,412,131	8,624,075
負債純資産合計	9,096,477	9,390,128

## (2) 四半期損益計算書

第3四半期累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自2020年7月1日 至2021年3月31日)	当第3四半期累計期間 (自2021年7月1日 至2022年3月31日)
売上高	1,197,985	1,416,049
売上原価	749,300	849,777
売上総利益	448,684	566,271
販売費及び一般管理費	191,741	216,259
営業利益	256,943	350,011
営業外収益		
受取利息	282	140
受取配当金	3,121	3,429
売電収入	2,101	1,775
貸倒引当金戻入額	65	—
その他	1,474	1,662
営業外収益合計	7,044	7,007
経常利益	263,988	357,019
特別損失		
固定資産除却損	341	574
特別損失合計	341	574
税引前四半期純利益	263,646	356,445
法人税、住民税及び事業税	73,300	130,830
法人税等調整額	8,227	△20,541
法人税等合計	81,527	110,289
四半期純利益	182,119	246,156



(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2021年11月1日開催の取締役会決議に基づき、2021年12月24日に譲渡制限付株式報酬として自己株式213,200株の処分を行いました。この結果、当第3四半期累計期間において、自己株式が149,241千円減少し、当第3四半期会計期間末において自己株式が692,153千円となっております。

また、自己株式処分に伴い、自己株式処分差益143,850千円を計上し、資本剰余金が同額増加しました。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することといたしました。

なお、「収益認識に関する会計基準の適用指針」第98項に定める代替的な取扱いを適用し、商品又は製品の販売において、出荷時から当該商品又は製品の支配が顧客に移転される時までの期間が通常の期間である場合には、出荷時に収益を認識しております。

この結果、当第3四半期累計期間において、四半期財務諸表に与える影響はありません。なお、利益剰余金の当期首残高に影響はありません。

また、「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号 2020年3月31日)第28-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第3四半期累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載しておりません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することといたしました。なお、四半期財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

- I 前第3四半期累計期間(自 2020年7月1日 至 2021年3月31日)  
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期損益 計算書計上額 (注)2
	コレット チャック部門	切削工具部門	自動旋盤用 カム部門	計		
売上高						
外部顧客への売上高	833,956	348,918	15,109	1,197,985	—	1,197,985
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	833,956	348,918	15,109	1,197,985	—	1,197,985
セグメント利益	382,357	64,098	9,147	455,603	△198,660	256,943

(注)1 セグメント利益の調整額は、製造部門共通費△6,919千円と主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

- II 当第3四半期累計期間(自 2021年7月1日 至 2022年3月31日)  
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期損益 計算書計上額 (注)2
	コレット チャック部門	切削工具部門	自動旋盤用 カム部門	計		
売上高						
外部顧客への売上高	992,272	407,942	15,834	1,416,049	—	1,416,049
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	992,272	407,942	15,834	1,416,049	—	1,416,049
セグメント利益	475,141	91,491	5,764	572,398	△222,386	350,011

(注)1 セグメント利益の調整額は、製造部門共通費 △6,126千円と主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

当第3四半期累計期間(自 2021年7月1日 至 2022年3月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント					合計
	コレット チャック部門	切削工具部門			自動旋盤用 カム部門	
		別注切削工具の 製作・再研磨	市販切削工具 の再研磨	小計		
工具製作	992,272	108,489	—	108,489	15,834	1,116,595
その他	—	—	299,453	299,453	—	299,453
顧客との契約から生じる 収益	992,272	108,489	299,453	407,942	15,834	1,416,049
その他の収益	—	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	992,272	108,489	299,453	407,942	15,834	1,416,049